

応募様式

地方創生に結びついたレファレンス事例

1. レファレンス事例のテーマ（応募名となります。）

テーマ（15 字内） 熊本地震から日本一の銭湯へ
副題（字数制限なし） レファレンスが担う地震からの復興と地域のぬくもり

2. 応募者 ※枠の大きさは適宜調整してください。

応募者属性	いずれかに○をしてください。 ☒ 図書館 ・ 図書館利用者（個人） ・ 図書館利用者（法人・団体等）	
代表者氏名	河瀬 裕子	
所属・職名等	くまもと森都心プラザ図書館	
連絡先	担当者	
	〒所在地	〒860-0047 熊本県熊本市西区春日 1 丁目 14 番 1 号
	電 話	
	F A X	
	e-mail	

（応募者属性が「図書館利用者」の場合、記入してください。）

レファレンスサービスを受けた図書館名 またその蔵書数	図書館名：	蔵書冊数： 冊
-------------------------------	-------	------------

3. レファレンスサービスを実施した／受けた時期

平成	29 年	9 月頃
----	------	------

4. 公表について

「1. レファレンス事例のテーマ」及び「2. 応募者（連絡先は除く。）」を図書館総合展のホームページ等で公表することに

☒ 同意します

☐ 同意しません

(いずれかに○をしてください。)

5. 質問の詳細と背景

【質問の背景】

くまもと森都心プラザは熊本駅前に位置し、2階には英語・中国語・韓国語などで案内ができるスタッフがいる観光・郷土情報センターと熊本県産の食材にこだわった料理を提供するわくわくカフェがあり、5階には収容人数約500名のプラザホール、6階には大小合わせて4つの会議室がある。3階・4階にあるくまもと森都心プラザ図書館は、約34万冊の収蔵能力を持ち、ビジネス書や専門書を多く取り揃え、ビジネスライブラリアンが4名おり、更にはスタッフ全員がレファレンスに対応できる、ビジネスに重きをおく図書館である。4階は中小企業診断士などの専門家が常駐し、起業・経営改善等に関する情報提供・相談・セミナー開催などに際して図書館と相互協力を行っているビジネス支援センターがあり、同フロアに図書館とビジネス支援センターがあるこの配置は全国初である。そしてこのように様々な特徴を持った施設同士があらゆる面で連携しながら運営している複合ビルである。

平成28年4月、最大震度7の巨大地震が2回、熊本を襲った。この地震によって、当館は1年近く通常開館が出来ず、同じく被災しているお客様を始めとした多くの方から励ましの言葉をもらいながら復興に取り組んだ。当館から徒歩10分圏内にある、3代続く銭湯世安湯(よやすゆ)もほぼ全壊となり、営業ができなくなった。熊本県公衆浴場業生活衛生同業組合に所属する、熊本市内11軒の銭湯の内、廃業を決めた銭湯が4軒ある中で、店主は地域に貢献したいという思いから、営業再開を決意した。

そこで同市内にある営業継続を決めた3軒の銭湯と共に、熊本県公衆浴場業生活衛生グループとして、「熊本県中小企業等グループ施設等復旧整備補助事業」の申請をした。これを機に内装や仕入れ、イベントの企画などを見直すことにし、参考となる資料を求めて当館へ来館した。

どの資料をみたらよいか分からず、困っている様子だったところにスタッフが声をかけ、話を伺ったところ、「修理業者に依頼する内装のデザインやイメージが思い浮かばず、図書館に来たがなにを見たらいいか分からない」と相談を受けた。当館には「プラザコレクション」という高度な課題解決に役立つ資料や新たな知を生み出すアイデアシードとなる資料群があり、統計・白書等の「ビジネス・サイド」、ビジュアル書を中心とした感覚に訴える本等の「ビジュアル・サイド」があり、レファレンスサービスの重要な柱となっている。他にもデータベースやフリーペーパー・雑誌など、書籍だけでは補えない情報を提供し、継続的にあらゆる面で支援することを提案した。

【質問の詳細】

1. 内装を新しい窓枠や壁の色に合う、シンプルなデザインにしたい。また、企業などから送られてくる広告や、ポスターを見栄え良く店内に貼りたいが、参考になる資料はあるか。
2. 地震見舞いや応援にいただいた観葉植物の育て方について。
3. 湯上がりに飲む商品に、熊本県産の飲料水や牛乳を仕入れようと考えている。市場の価格や需要が分かる資料はあるか。商品の種類と仕入れ方法を併せて知りたい。

4. 狭い店内を有効に活用した、販売スペースの事例が載っている資料が欲しい。
5. 世安湯に立ち寄るすべての人に銭湯を楽しんでもらえる独自のイベントをしたい。全国的に銭湯でどのようなイベントが開催されているか分かる資料はあるか。

6. 図書館からの回答内容

1. [内装・レイアウト]
店舗や住宅のデザイン・写真・図案が紹介されている図書や雑誌を紹介した。
 - ① 『グラフィックス×リノベーションでつくるこだわりのショップデザイン』
パイインターナショナル/編著 パイインターナショナル 2017 年
 - ② 『住宅建築』 建築資料研究社 2017 年 8 月号
 - ③ 『GA JAPAN』 出版:ADA エディタトーキョー 2017 年 9-10 月号
 [ポスターの掲示方法]
 - ① 『壁面ディスプレイスタイル BOOK 雑貨と DIY で壁を変えるアイデア 150』
主婦と生活社 2015 年
 - ② 『カフェみたいな暮らしを楽しむ本 コーナーづくり編』 学研パブリッシング 2013 年
2. [観葉植物]
写真を使って紹介しているものを提供した。
 - ① 『はじめての観葉植物の手入れと育て方』 橋詰 二三夫/監修 ナツメ社 2008 年
 - ② 『わかりやすい観葉植物の育て方』 小川 泰弘/監修 大泉書店 2006 年
3. [新たな仕入れと販売方法]
熊本県産の飲料水について、わくわくカフェや観光・郷土情報センターと連携し、情報提供を行った。仕入れ方法など経営については、専門家がいるビジネス支援センターへ案内した。
また、牛乳に関してはデータベース「Mpac」より、メーカー・サイズ・価格等のデータを提供した。
[地元の飲料水]
 - ① 『第 22 回 くまもと物産フェア』 チラシデータ
<https://kumanago.jp/event/?mode=detail&id=430000005727&isEvent=1>
 [牛乳に関する資料]
 - ① “チルド・ブリック飲料 2017 年 9 月 25 日(月)～2017 年 10 月 1 日(日)”
コンビニ POS データ全商品売上ランキング 飲料(そのまま飲むタイプ)
マーケティング情報パック (Mpac)
https://www2.fgn.jp/mpas/_data/2/?b=1806
 - ② “飲料(そのまま飲むタイプ) 白物飲料(500ml:牛乳) 2017 年 9 月 25 日(月)～2017 年 10 月 1 日(日)”
ドラッグストア POS データ 大カテゴリ 飲料
マーケティング情報パック (Mpac)
https://www2.fgn.jp/mpac/_data/3/?d=11_33_3305&y=2017&v=4&s=4
 - ③ 『食糧年鑑 2016 年度版 [2] 食品界総合名簿』 日本食糧新聞社 2016 年
 - ④ 『食品メーカー総覧 2017』 日本食糧新聞社 2016 年
 - ⑤ 『一般社団法人 日本乳業協会 熊本県牛乳協会及び加盟企業』
<http://www.nyukyuu.jp/cgi/membership/index.cgi?SearchType=5&association=40>

4. 【販売スペース】

限られたスペースで販売する際に、役立つような事例が載っている資料を紹介した。

- ① 『ハンドメイドイベント出展ガイドブック』 ブティック社 2017 年
- ② 『売上につながるディスプレイ』 沼田 明美/著 同文館出版 2014 年
- ③ 『儲かる売り場の全技術』 前田 輝久 かんき出版 2016 年
- ④ 『かわいい雑貨店とカフェのデザイン』 パイインターナショナル 2012 年

5. 【銭湯のイベント】

当館所蔵の図書だけでなく、データベース「ヨミダス歴史館」「ELNET」の記事を案内し、東京銭湯のホームページなどを紹介した。

- ① 『街を変える小さな店』 堀部 篤史 京阪神エルマガジン社 2013 年
- ② 『繁盛商店街の仕掛け人』 鶴野 礼子/著 ダイヤモンド社 2008 年
- ③ 『人が集まる「つなぎ場」のつくり方』 ナカムラ クニオ/著
阪急コミュニケーションズ 2013 年
- ④ 『ご当地サイダー人気』 読売新聞:東京朝刊 2017.09.28
- ⑤ 『銭湯で沖縄民謡ライブ』 読売新聞:東京朝刊 2017.09.05
- ⑥ 『銭湯舞台 アートイベント』 読売新聞:東京朝刊 2017.07.22
- ⑦ 『おしゃれして銭湯行こう 若者向け PR イベント』 読売新聞:東京朝刊 2017.03.08
- ⑧ 『壁越し短歌 求愛の湯』 読売新聞:大阪朝刊 2017.01.09
- ⑨ 『銭湯 浮世のあか落とし』 読売新聞:夕刊 2010.4.28
- ⑩ “【11 月 11 日(土)】いこーよ×小杉湯特別企画:「おやこ銭湯」デビューしませんか?”
東京銭湯 ホームページ” 2017.10.29
<http://tokyosento.com/news/16397/>
- ⑪ “ヒットのヒント「注目! 銭湯の『ユニークでスゴイ』生き残り策」”
UK 上野旭昇堂 2014.6.13
<http://uk-kyoto.co.jp/ヒットのヒント%e3%80%80「銭湯のユニークな生き残り/>
- ⑫ “いろんな企画がいっぱい! イベント銭湯に行ってみよう【銭湯日記 Vol. 6】”
DRESS 2017.3.8
<https://p-dress.jp/articles/2790>
- ⑬ “銭湯文化で横浜の歴史を 2 会場で企画展 当時のグッズなどで体感”
産経ニュース 2018.2.6
<http://www.sankei.com/region/news/180206/rgn1802060026-n1.html>

7. 今回の応募事例が地方創生に結びついた成果・効果

熊本地震から約 1 年 7 カ月後の平成 29 年 11 月 1 日に、世安湯は地域住民や以前から利用されているお客様だけでなく、熊本県外や海外から来られるお客様の交流の場としての役割も持つ銭湯として営業を再開した。一人暮らしの方も立ち寄り交流を深める場だからこそ、孤立しがちな高齢者の安否確認にも一役買っている。当館の資料を参考に修繕された店内は、お客様から「年配の方も歩きやすい」「銭湯のイメージが変わった」「シンプルで良い」「明るい」と大変好評であると伺った。

熊本地震から復興した例として、メディアによって新聞やニュースで報じられ、以前から利用していたお客様が戻ってくるだけでなく、今まで世安湯を利用したことがないお客様が足を運びきっかけとなった。営業再開後、お客様から近隣の店について尋ねられた際は、当館が毎月発行してい

る広報誌『battenn toshokann』のファイルを使って紹介することがあるそうだ。併せて、近くの宿泊施設を利用しているお客様が世安湯を紹介されて訪れるなど、地域の活性化に繋がった。

また子どもの日に行ったイベントの際には、菖蒲湯の由来や飾り付けで使える資料がないか相談があった。菖蒲湯の飾りは当館の資料を参考にしながら、地域の方々や世安湯のお客様と一緒に作成したことにより、世安湯を中心とした新たな交流が生まれた。更に由来について資料を提供したところ、イベント当日、メディアからの質問にスムーズに答えることができたという。

店主は日頃より当館を利用しており、スタッフと交流をしていく中で、信頼関係を築いていった。また地震以降には当館主催の様々なイベントに参加し、その中でも当館のスタッフが講師を務めるデータベース講習会に参加した際には、市場情報評価ナビ(MieNa)をはじめとするデータベースの操作方法を習得し、「世安湯がある地域の特徴を見つめ、世安湯の方向性を改めて考え直すきっかけとなった」と話していた。

今ではデータベースで得た情報を基に、より詳しい資料がないかレファレンスを依頼されるようになり、店主にとって「居心地のいい図書館」だった当館が、スタッフと信頼関係を築いていく中で、「居心地のいい頼れる図書館」に変わっていった。

また、新しいことにも積極的に取り組んでおり、今年度に入って熊本県立大学の学生と共に新しい企画を進行中である。当館にも、世安湯との企画をきっかけに学生がしばしば来館するようになった。レファレンスサービスを初めて知った学生が、店主と同じように「居心地のいい頼れる図書館」と感じ、当館の資料を使うことによってアイデアを今以上に広げながら的確な情報収集ができるよう、スタッフ全員で引き続き協力していく。

8. 今後の課題・展望

今回のレファレンスを受けて、銭湯という業種に紹介できる資料の少なさを感じた。ビジネス支援サービスを提供するには、白書や統計データといった数値を見る資料だけではなく、店づくりや街づくり、コミュニティづくりに関する資料、フリーペーパーをはじめとする入手困難な資料の存在も重要である。今後は選書基準に則り、更なる既存資料の拡充と、書籍にこだわらない幅広い資料の収集を行う必要がある。

「ここまで調べてくれるとは思わなかった」との言葉を何度もおっしゃったので、図書館で日常的に行うレファレンスというサービスが、普段から利用されている方にも知られていないと感じた。レファレンスサービスとは日常にある疑問や、調査研究をサポートする基本的なサービスである。当館は周辺に、専門学校や予備校、一般企業や官公庁、熊本駅があるため、様々な人が様々な目的をもって来館されることから、簡単な資料検索から一人一人のニーズに沿ったレファレンスに対応できるよう資料の充実に加え、スタッフは来館者のより高度な要望に応えるため更にスキルを磨いていきたい。

(注)

- 1 本様式の作成にあたっては、全体で5ページ以内に収めてください。
- 2 本様式とは別に参考資料を添付していただくことも可能ですが、資料のサイズはA4サイズとしてください。
- 3 書類審査を通過した応募書類については、図書館総合展ホームページ等で公表させていただく場合がありますので、本様式の作成にあたっては個人情報の記載等について御留意ください。

【熊本地震から日本一の銭湯へ 参考資料】

【くまもと森都心プラザ図書館】



くまもと森都心プラザは熊本駅前にある複合施設である



図書館4階（プラザコレクションやビジネス書などが並ぶ）



プラザコレクション(ビジネス・サイド)



プラザコレクション(ビジュアル・サイド)



ビジネス支援センター

よやす ゆ
【世安湯】



平成 28 年 (2016 年) 熊本地震本震後の浴場



煙突が折れ、天井は落ち、ボイラー使用不能



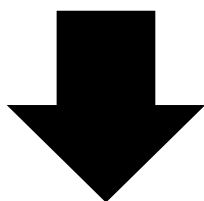
デザインが決まり、修理工事を開始



当館の資料を基に浴場のタイルの色を見直し



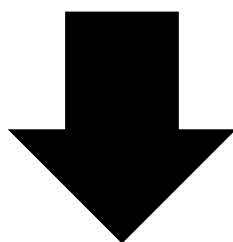
震災前の浴場



震災後タイルを白一色にしたことで、シンプルかつ明るく



震災前 たばこ販売を行っていた店頭スペース



震災後 営業時間、定休日、駐車場など世安湯の利用情報を掲示する場所へ



入口横の引き戸には営業再開のポスターを掲示



地震後、褐色の棚は固定せずあえて可動式に
寄席などイベントを行う際には、この棚を移動させお客様が集う交流の場所となる



フロア中央にある番台、ここで会計や物販・備品の貸し出しを行う
両サイドにお客様が脱衣所へ向かう動線を確保した

新聞各紙に掲載された営業再開の様子

被災し気づいた「銭湯の力」

熊本老舗の3代目夫婦が再開へ

熊本地震で倒壊した熊本市中央区の銭湯、世安湯が近く営業を再開する。地震から14日で1年半。3代目夫婦は修復で大きな借金を背負ったが、地震を通して見つけた「銭湯の力」を信じ、一歩を踏み出す。

▼1面参照

1930年創業。地下水をまきで沸かす湯は、地元の銭湯に負けてきた。

友治さんは2014年、東京の会社を辞めて帰郷し、銭湯を継いだ。だが祖父の代に1日8000人を数えた客は、多い日も20人ほどに落ち込んでいた。

商業も凋落したあったが、改めて見た。熊本県公衆衛生推進士同業組合加盟の銭湯を統括するウェブサイトを立ち上げ、銭湯マップをつくり、新たなファン獲得を狙った。地震が起きたのは、新たな客が少しずつ増えていた矢先だった。

未明の激しい揺れで煙突が折れ、天井を突き破って浴室に落ちた。浴槽は砕け、ボイラーも配管も壊れた。

妻の由美さん(53)は当初、営業を断った。鬱々とした客に愛され、おしゃべりも楽しかったが、家族や友人もみな「借金が増えただけ」と修復に反対していた。

だが、友治さんの気持ちだけは揺るがなかった。被災した銭湯に声をかけてクルーブ補助金を5軒で申請。自ら機材を購入して倒壊し面を修繕。申請書類の大半を自らまとめた。

由美さんは生き生きと動き回る夫に驚き、「この先を見てみたい」と思うようになった。

常連客のことも気になっていた。被災直後、風呂屋員を招いて来た近所の高齢女性は、がれきに埋まった浴槽を見て涙み涙をこぼしていた。「風呂がないと話す相手がおらん」。そんな声も何度も聞いた。地震を機に気づいたこともあった、とふたり。

ある常連客は、風呂で「結構になるお年寄りの家族構成や病院、費用まで知っていた。その情報を元に家や避難所を見舞い。別の常連客から聞いた水や食料を地域の人で分け合った。避難生活を送る人から「風呂仲間」に無事だと伝えて」とこづつあったことも。

「銭湯には人と出会う、人をつなぐ力があると感じた」とふたりは言う。

3月、修復工事に着手。風呂所は男女の仕切りを外せばイベントスペースになるようにした。9月、銭湯家の入船孝治さんを招いて風呂所に蒸気を殺し、地域の人と蒸気を楽しんだ。地震以来、少し元気のいいまち。「銭湯の力」を信じ、地域をおこしていく力を見てみたい」と友治さん。由美さんは銭湯をキーンパスになぞらえてこう言う。「影りを落とすのはお客さん。その風情を見るのが好き」。

11月の営業再開を指す世安湯の店員友治さん
11月3日午後、熊本市中央区世安町、小高橋通




「被災し気づいた「銭湯の力」」
朝日新聞, 2017-10-15, 朝刊, p39(上)

老舗銭湯 来月待望の再開

「本震」で被災の世安湯 熊本

熊本地震の「本震」で被災し、休業していた熊本市中央区の老舗銭湯「世安湯」が、11月1日に営業を再開する。県内の銭湯17軒のうち地震で11軒が休業を強いられた。順次再開したが、4軒は廃業し、世安湯が最後に残っていた。3代目の坂崎友治さん(54)は「ようやくここまでこぎ着けた。以前のように地域の交流の場になりたい」と意気込んでいる。(芦原夕奈)



①被災後初めて水を張った湯船の様子を確かめる坂崎さん(12日、熊本市中央区で)
②本震で天井が崩れ、がれきが散乱した女湯(昨年4月16日撮影)＝世安湯提供

1930年(昭和5年)の創業。県内で唯一、まきでお湯を沸かし、創業時から残るレンガ造りの煙突(高さ約12m)が目印だった。2013年には、数少ない銭湯絵師に、浴場の壁

に富士山を描いてもらい、評判を呼んでいた。

昨年4月14日夜の「前震」で大きな被害はなく、翌日には、坂崎さんが副理事長を務める県公衆浴場業生活

衛生同業組合(熊本市)など、市民を元気づけようと無料開放を検討していた。ところが、16日未明の本震で、激しい揺れにより煙突が折れた。銭湯2階の自宅にいた坂崎さんにけがはなかったが、夜が明けて階下に行けると、ぼうぜんとなった。女湯の天井を突き破った煙突のレンガが、浴場内に散乱していた。「被害の大きさに圧倒されて、現実がどうも実感がなかった」

断水に加え、不便な避難所暮らしで、多くの人が風呂に入らず困っていた。もどかしさを感じながらも、坂崎さんは、営業可能な銭湯を組合のホームページで毎日紹介。3日後には煙突内に落ちたレンガの撤去を始めた。大型連休に入ると、近所の人や常連客が、手伝ったり、励

ましたりしてくれた。「銭湯が地域の交流拠点だというのを改めて痛感した」と振り返る。

煙突やタイルの修復などにかかる費用数千万円の調達に頭を悩ませたが、国や県が復旧費の一部を助成するグループ補助金を組合で受け入れることになった。

シンボルの煙突は、レンガ部分の高さが半分ほどになったが、再開後もまきで地下水を沸かすつもりだ。「火加減の調節など手間はかかるが、お湯に柔らかな温かさがあるとお客様に喜んでもらえるから」と笑う。

常連客の70歳代男性は「休業中も気になって何度も様子を見に行った。坂崎さんとおしゃべりが楽しみだ」と再開を待ちがれている。

今年12日、被災後初めて湯船に水を張った。坂崎さんは「ここまで多くの人に支えてもらった。みんながわくわくするようなイベントも企画して、地域の交流を取り戻したい」と力を込

めた。

29日には、大阪の銭湯経営者らと「オフロンピック」を開催。デッキブラシや風呂おけを使ったカーリングなどを行う予定で、地域の住民に参加してもらった。

『老舗銭湯 来月待望の再開「本震」で被災の世安湯 熊本』

読賣新聞, 2017-10-18, 朝刊, p29(下)

世安湯 〰 またつかれる幸せ

常連客再会に笑顔 ■住民「懐かしい」



湯につかり、くつろぐ入浴客—いづれも1日、熊本市中央区世安町

熊本地震で損壊し、休業していた熊本市中央区世安町の銭湯「世安湯」が1日午後、営業を再開した。かつての常連客が次々と訪れて再会を喜び、湯につかって近況を語り合った。

世安湯は1930年創業。昨年4月の地震で煙突が崩れ落ちて屋根を突き破るなど大きな被害を受けた。再建に取り組んできた3代目経営者の坂崎友治さん(64)と由美さん(63)夫妻はこの日朝から準備し、営業再開を知って向かう途中であったという。

まさにくるに会いが漂うと、近所の人も「懐かしい」と、目をほそめた。

最初に訪れたのは常連だった女性3人組。世安湯の休業後は顔を合わせる機会がなくて、営業再開を知って向かう途中であったという。

浴槽・手すり…利用者考え工夫
経営者夫婦「人つながる場所に」



常連客との再会を喜び談笑する坂崎友治さん(右)と由美さん(中央)夫妻



「菊の湯」から譲り受けた体重計

世安湯の再開には、廃業した県内外の銭湯から様々な支援が寄せられた。熊本市中央区新町4丁目では昨年未まで営業していた「菊の湯」からは体重計や衣服を入れるかごなどを譲り受け、男湯の脱衣所に置いた。女湯の体重計とかごは昨年廃業した「くすり湯」(同区新町1丁目)が、靴箱や浴室の風呂おけなどは岐阜市で営業していた「YU・YU朝日浴場」が同業者から再開の話を聞いて譲ってくれた。

菊の湯は熊本地震で天井が抜けるなど

廃業の銭湯思い託し支援

う。その一人、熊本市西区二本木4丁目の堺孝女さん(81)は2時間近く入浴と会話を楽しんだ。「久しぶりに話が出来てうれしかった。風呂がなかったら会えなかった」

近所で生まれ育ち、ものごとろついた頃から世安湯に通っていたという松村甲右さん

坂崎さん夫妻は、そんな常連客の顔を思い浮かべながら再開準備をしてきた。高齢者を思いついて浴槽の深さや縁の高

(84)も訪れ、真新しい浴槽に身を沈めて浴室を見渡し、顔をほころばせた。「広いし友達にも会えるし、我が家の風呂よか、なんもかんもよかですわ」。近年は自宅の風呂に入ることが多かったが「これからは時々お世話になります」と笑った。

由美さんは「常連さんの顔がほころぶのを見て、うれしかった」。友治さんは「ようやく、自分たちにもお客さんにも日常が戻ってきたように感じられた。人がきて安らぎ、人がつながる場所になればいいなと思っています」と話した。

体重計・脱衣かご…県内外から寄付



岐阜市の銭湯「YU・YU朝日浴場」から譲り受けた靴箱

大規模半壊となったが、ブルーシートを張って営業を続け、被災者を受け入れていたが、修復にかかる費用の多さなどから再開を断念した。経営していた高木陽子さん(62)は「銭湯では知らない人と会話が始まる。そんな様子が好きだった。そんな場が残り、うちの道具がそこで活躍できるならうれしい」と話した。

(左田誠司)

『世安湯 またつかれる幸せ 常連客 再会に笑顔 住民「懐かしい」』

朝日新聞, 2017-11-5, 朝刊, p29 (左)

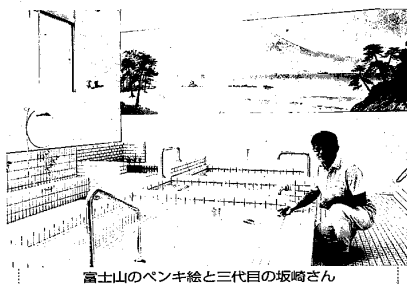
1年7カ月ぶり 銭湯 まき木の香り

熊本地震で被災して休業中だった創業88年の銭湯「世安湯」（熊本市中央区世安町）が1日、約1年7カ月ぶりに営業を再開する。被災を契機に廃業する銭湯も相次ぐ中、三代目、坂崎友治さん(54)は国と県のグループ補助金を利用して再開する。坂崎さんは「廃業は簡単だけど、銭湯のある街は魅力的だから再開した」と語った。

再開が迫った10月下旬、温度を確認するために浴槽に湯を張ると、煙突から上がる煙を見た常連客たちが「再開はいつだっけ」と準備中の店内に続々と顔を出す。世安湯は1930年に坂崎さんの祖父母が創業し、長年にわたって住民に親しまれてきた。坂崎さんは2014年3月、29年間勤めた東京のソフトウェア開発会社を辞め、高齢になった父・権之助さん(82)の跡を継ぐため帰郷した。

坂崎さんが店を継いだ15年4月の約1年後、熊本地震が起きた。昨年4月14日の前震で大きな被害は出なかったが、16日未明の本震でれんが積み煙突（高さ約12m）が倒壊。浴場や店舗裏にがれきが散乱した。

きょう営業再開



富士山のペンキ絵と三代目の坂崎さん

地震直後、世安湯は県公衆浴場業生活衛生同業組合（熊本市）の事務局になり、坂崎さんと妻由美さん(53)は、避難生活で風呂に入ることができない被災者に入浴できる銭湯を紹介しながら、世安湯の散乱しがれきを運び出した。大きながれきは昨年5月4日にボランティア十数人の手助けで撤去した。しかし、工事業者や職人は人手不足でなかなか見つからず、修復工事は7カ月以上も遅れて今年10月ようやく完了。煙突はれんが製からステンレス製（高さ約10m）に生まれ変わった。

しかし、市内唯一のまきで沸かす湯と、浴場壁に描かれた富士山のペンキ絵は地震前のままだ。坂崎さんは「たくさんの方々を支えられてようやくここまでできた。湯の感触は柔らかく、浴場ではまき木の香りも楽しめます。地震前と変わらない良いお湯を楽しんでもらいたい」と意気込んでいる。営業は午後3時（夏期は午後4時）～午後9時。火、水曜定休。

【清水晃平】

『1年7ヶ月ぶり 銭湯まき木の香り きょう営業再開』

毎日新聞、2017-11-1、朝刊、p25(左)

「世安湯」1年半ぶり再開 新しい湯船 最高!!

熊本地震で被災し、休業していた熊本市中央区の老舗銭湯「世安湯」が1日、1年半ぶりに営業を再開。常連客らが次々に訪れた。

熊本地震で被災し、休業していた熊本市中央区の老舗銭湯「世安湯」が1日、1年半ぶりに営業を再開。常連客らが次々に訪れた。地震では、創業時から残るれんが積み煙突が折れ、ボイラーや浴槽なども破損。地震後に廃業を余儀なくされた銭湯もある中、3代目の坂崎友治さん(54)が「地域の人

が集う場になりたい」と再建を決断した。

この日は午前10時に湯をたぎ始め、午後3時に開店。再開を待ちわびた常連客らが、真新しい湯船に気持ち良くそつに漬かっていった。

近くに住む堺尋女さん(81)は「とても気持ち良かった。友達にも再会できてうれしい」と笑顔だった。

（西國祥太）



営業を再開した「世安湯」の番台に立つ坂崎友治さん（右）
＝熊本市中央区

『新しい湯船 最高!!

「世安湯」1年半ぶり再開』

熊本日新聞、2017-11-2、朝刊、p25(上)

新聞各紙で取り上げられた菖蒲湯のイベント



『ショウブ湯 いいにおい 熊本・銭湯7施設』読売新聞, 2018-5-6, 朝刊, p27(右)



『こどもの日 あふれる笑顔』熊本日日新聞, 2018-5-6, 朝刊, p21(上)



『子どもら公衆浴場で「しょうぶ湯」を満喫』西日本新聞, 2018-5-6, 朝刊, p28(上)





メディアの取材に応じる世安湯 3 代目店主



菖蒲湯の飾りは、地域の方々や世安湯のお客様と一緒に作成